

# 農業技術 フリスム

長崎県の野菜の重要品目であるアスパラガス。面積拡大を図るため、露地栽培で、他品目との組み合わせが可能な単年どり栽培（伏せ込み栽培）を検討しました。

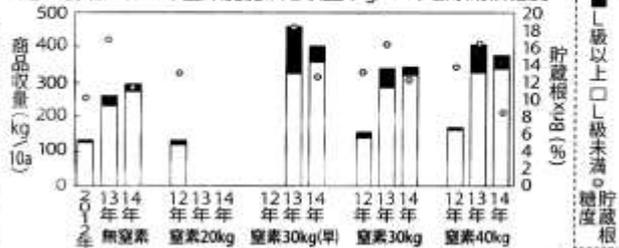
アスパラガス（野菜類）・水稻のローテーション体系を考える上では、国産アスパラガスの産地である1、2月に収穫可能な伏せ込み栽培を行う必要があります。収量向上のためには、根株を掘り上げるまでの株養成期間中糖度（Brix）が高く、大きな根株（貯蔵根）を作ることが、伏せ込み栽培において重要です。

本研究では、環境に優しい栽培技術である有機質肥料を活用した施肥法を確立するため、品種「ウェルカム」を用い、追肥開始時期と施用量を変えた試験区を設け、貯蔵根の重量・糖度および商品収量を調査しました。

その結果、単年どり露地アスパラガス栽培において、株養成期間中に有機質肥料を窒素成分10kg当たり30kgの施用とし、追肥を6月から始めると、貯蔵根の糖度が高くなるとともに収量も増加し、1級以上の割合が高くなること分かりました。

## 単年どり露地アスパラ 有機質肥料窒素成分 30kg/10a 施し効果

アスパラガス伏せ込み栽培における窒素施肥法と収量(kg/10a)と貯蔵根糖度



※元肥としてぼかし肥料(N・P・K=4・3・2)を無窒素区以外の全ての区に窒素10kg/10a。追肥としてシールサブリエクス(N・P・K=3・1・1)を4回に分けて施用  
※窒素10kg(甲)区は追肥を6月から開始し、その他の区は、追肥を7月から開始

有機質肥料を施用する際の留意点としては、アスパラガス・野菜類栽培後に水稻を栽培する場合は、前作での堆肥・施肥の影響を受け水稻の生育・品質に影響を生じる可能性があるため、土壌診断に基づいた施肥管理が必要となります。また、露地栽培において、ア

スパラガスは茎枯病などの病害に弱いため、同一圃場(ほじょう)での連作は避ける必要があります。

(長崎県農林技術開発センター 清水マサユキ)